



旭川市立神居東小学校 学校だより



# ぬくもり

旭川市神居1条17丁目 Tel 62-2932

令和 2 年 8 月 3 日発行 第 4 号

新型コロナウイルス感染拡大防止のご協力に感謝いたします。

校長 澤田 匡史

6月1日(月)の学校再開から、1～4年生が60日間、5・6年生が62日間の授業日を終え、夏休みを迎えます。1学期は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための神居東小学校における「新しい生活様式」の定着を図りました。様々な制約がある中で、子どもたちや教職員がそれぞれに工夫し、新しいスタイルに馴染んでいく姿を見て、とても頼もしく感じております。保護者や地域の皆様には、多大なるご理解とご協力をいただいたことに、この場を借りて心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

今後、学校における感染拡大のリスクがなくなるものではありませんが、2学期以降も引き続き万全の感染症対策を講じ、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、教育活動の充実を図ります。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。



さて、今年度より、小学校では「新学習指導要領」に基づいた教育活動を推進しています。そこで今号では、「新学習指導要領」の主旨等と本校の教育活動について関連させながら、概要について説明します。

※「学習指導要領」とは、全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするために、文部科学省が定めた各学校で教育課程を編成する際の基準です。

子どもたちが成人して社会で活躍する頃には、生産年齢人口の減少、絶え間ない技術革新等により、社会や職業の在り方そのものも大きく変化する可能性があります。子どもたちが生きる未来について、次のように提言している方もいます。

○子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く。

＜キャッシュ・デビッドソン氏（ニューヨーク市立大学大学院センター教授）＞

○今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い。

＜マイケル・A・オズボーン氏（オックスフォード大学准教授）＞

未来を生きる子どもたちには、超情報化社会を乗り越え、高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら、未来を切り開いていく力が必要です。

上記の社会的背景から、「新学習指導要領」には、「学校で学んだことが、子どもたちの『生きる力』となって、明日に、そして、その先の人生につながってほしい。」「これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。」という願いが込められています。

そのため学校では、子どもたちに、蓄積された知識を基盤としながら、膨大な情報から何が重要かを判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していく力を育成することを重視した教育活動を推進しています。具体的には、「言語能力」や「問題発見・解決能力」、「情報活用能力」等の育成です。今号では、「言語能力」と「問題発見・解決能力」について掲載させていただきます。

「言語能力」とは、物事を的確にとらえ、自分自身の考えを論理的にまとめ、相手に応じて適切に表現し、必要な場合には建設的に議論をして結論を得るといった、コミュニケーションにかかわる力のことです。

＜本校では＞

授業等において、教科書や教師の説明、様々な資料等から新たな知識を得たり、事象を観察して必要な情報を取り出したり、自分の考えをまとめたり、他者の思いを受け止めながら自分の思いを伝えたり、学級で目的を共有して協働したりすることを重視しています。

「問題発見・解決能力」とは、学習場面において、これまでに身に付けた知識や技能などを使って、問題を認識し、情報を収集・分析するなどして、方策を決め、解決していく力のことです。

＜本校では＞

授業等において、物事の中から問題を見だし、解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行の実現を図ることを通じて、各教科等のそれぞれの分野における問題の発見・解決に必要な力を身に付けることを重視しております。

例年より短い夏休みではありますが、家庭や地域の中での生活においても、子どもたちが学んだことを社会や人生に生かすことができるよう、様々な力を育成できればと願ってやみません。

